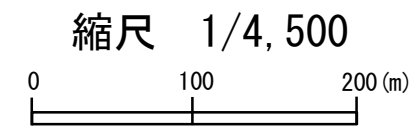


# おおづつみ 大堤ため池ハザードマップ



大堤ため池ハザードマップは、万が一決壊した場合の備えとして、浸水の深さやいざという時の心構え、避難所などをハザードマップとして地図上に整理しました。浸水の特徴を理解して、地域住民が話し合い、ハザードマップを理解することで、いざ防災情報を得た際に正しい判断・行動がとれるようになります。よく目にする所に貼り、普段から家族や地域のみなさんと話し合いましょう。

地震のあとの災害シナリオ						
時間	発生前	数秒～1分	1～3分後	5～10分後	約30～50分後	落ち着くまで
地震情報	緊急地震速報	<b>発生</b>	地震速報	被害の情報収集		
(TV・ラジオ)	(数秒前)		防災無線			
行動の目安	少しでも安全な場所へ移る	いのちを守る	家族を守る 揺れがおさまったら、 高台や安全なところへ 避難	安全な場所へ 避難	避難所などで 待機し、町の 指示を待つ	
被害	○決壊する場合	集落に水が到達				
	○決壊しない場合	緊急放流で水位低下・点検				
※地震直後に決壊しなくても、数日後に決壊することがあるため、監視を継続						

**いざというときは**

- 早めに避難、暗くなる前に避難しましょう
- 避難するときは声をかけあいましょう
- 避難する際の服装などに注意（露出を抑えた動きやすい格好）
- 車での避難に注意（浸水想定区域内を通行しない）
- ため池直下（3.0m以上の予想）：速やかに避難路を使って高台へ
- ため池直下以外（0.25～1.0mの予想）：建物の2階などに移動し、水が引いたら避難所へ避難

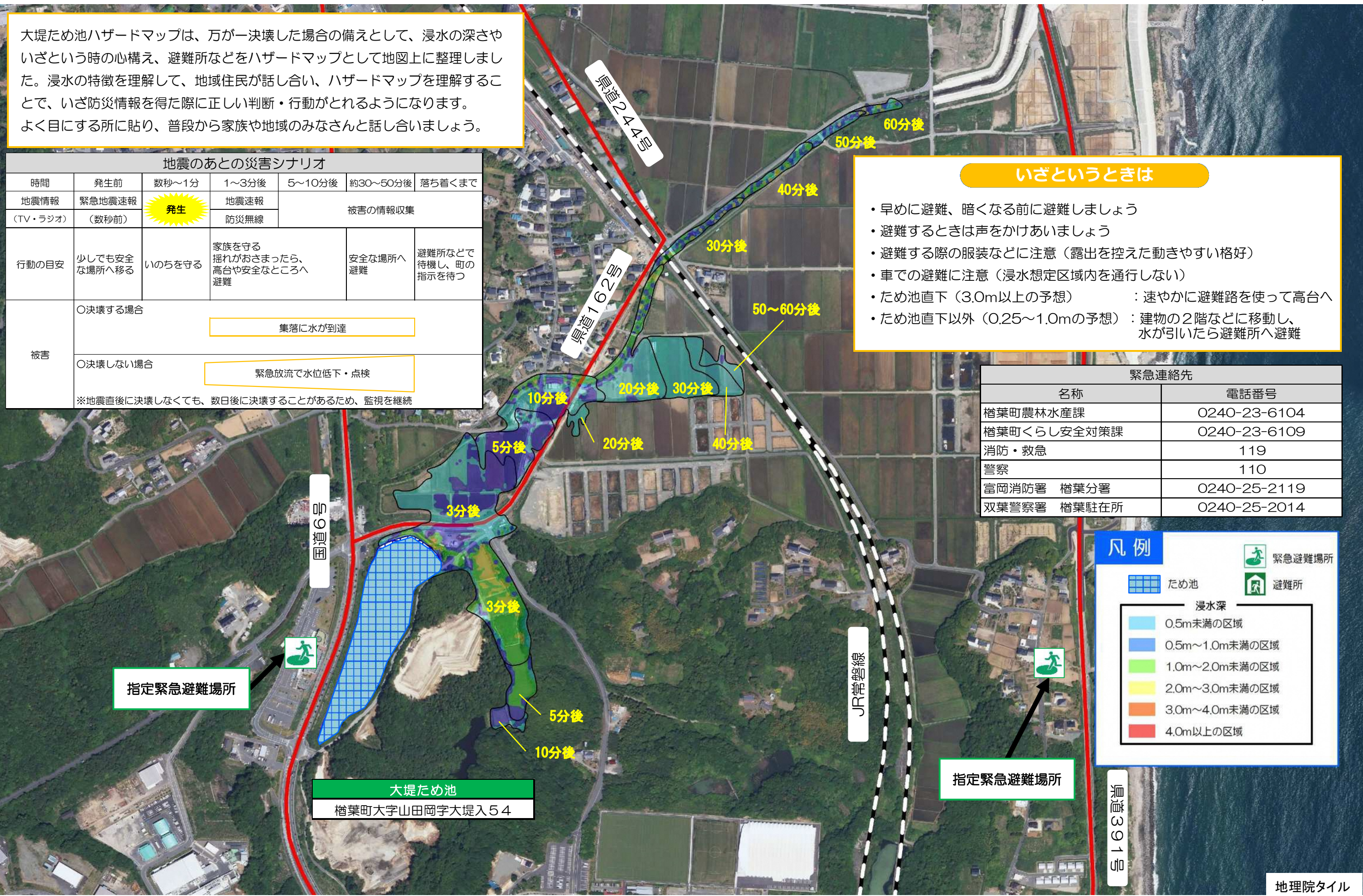
緊急連絡先	
名称	電話番号
榎葉町農林水産課	0240-23-6104
榎葉町くらし安全対策課	0240-23-6109
消防・救急	119
警察	110
富岡消防署 榎葉分署	0240-25-2119
双葉警察署 榎葉駐在所	0240-25-2014

**凡例**

- ため池
- 緊急避難場所
- 避難所

**浸水深**

- 0.5m未満の区域
- 0.5m～1.0m未満の区域
- 1.0m～2.0m未満の区域
- 2.0m～3.0m未満の区域
- 3.0m～4.0m未満の区域
- 4.0m以上の区域





# おおづつみ 大堤ため池ハザードマップの見方・使い方

## ■ハザードマップの作成の目的

大堤ため池ハザードマップは、万が一の事態でため池が決壊した場合、最大でどの程度の浸水範囲となるかを知るために最悪の状況を想定した浸水予測を行いました。

住民のみなさんがハザードマップを通じて、想定される災害を事前に知り、自らの避難を考え、地域の防災力向上につながることを目的としています。

## ■ハザードマップの作成条件

現在起こりうる最大の危機を想定しました。  
大堤ため池が満水の状態で、貯水量の全量31千トンが下流域に流れ出す場合を想定しました。



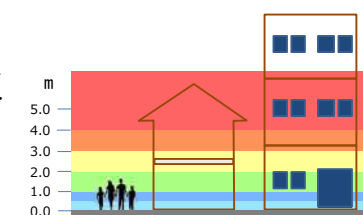
## ■そうってからでは遅い！早めの避難

浸水が始まってから行動したのでは、手遅れになる場合があります。あらかじめ、このハザードマップで水がせまりくる状況を学び、万が一の事態が発生した場合の早めの判断、速やかな行動につなげてください。

## ■ハザードマップに載せる情報

### ① 場所ごとの浸水する深さ

場所ごとの浸水する深さを色分けして地図上に表示しました。



### ② 到達時間

ため池の水が到達するまでの時間を表示しました。

### ③ 避難場所

災害から命を守るために緊急的に避難する施設または場所である指定緊急避難場所を表示しました。  
なお、一刻も早い避難が必要なときは、建物の2階や近くの高台など安全が確保できる場所に避難してください。



### ④ いざというときの心構え

いざというときの避難に備えて、日常から心がけておく事柄を記載しました。

## 地図を見るうえでのポイント

- 地図の凡例を参考に、どこにどのような浸水が想定されているか確認しましょう（浸水想定区域では、水だけでなく、土砂や流木、地図上にある様々なものが押し流されてくる可能性があります。）
- 災害の状況によっては、避難所へ向かうことが危険な場合があるので注意しましょう。
- 地図上にある災害シナリオを参考に、災害の発生から避難完了までを考えてみましょう。
- 地図を片手に自分の家から避難所まで歩き、実際の距離感や、災害時に危険そうな箇所（地震時に崩れそうなブロック塀、大雨時に溺れそうな深みのあるところ）や、逃げ込める高台などをあらかじめ確認しておきましょう。